

漁連だより

2025

4・5

No.356



雲仙市国見町にある神代港での潮干狩りの様子

CONTENTS/目次

令和7年度定期人事異動発令……………	P1	ガザミを採捕される皆様へ……………	P7
FOODEX JAPAN 2025に出展……………	P2	募金ありがとうございます……………	P7
「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」……………	P3	マダイのTAC（漁獲可能量）管理開始について……………	P8
本会新入職員紹介……………	P4	令和7年度の総合水産試験場の取組について……………	P10
魚礁に魚が集まる理由・シェルナース調査報告会……………	P5		

令和7年度定期人事異動発令

※個人情報保護の観点から、WEB掲載版では、
一部内容を省略しております。

FOODEX JAPAN 2025 に出展

事業推進部 営業課

さる3月11日から14日にかけて、東京都にある東京ビックサイトにおいて「FOODEX JAPAN 2025」が開催されました。

「FOODEX JAPAN」はアジア最大級の食品・飲料展示会であり、1976年から毎年開催し、今回で50回目を迎えました。食品商社をはじめ、小売（スーパー・EC・ドラッグストア・専門店等）、外食、給食、宿泊（ホテル・旅館等）、食品・飲料メーカー等、食に携わるあらゆる業種のバイヤーが来場し、異業種との商談機会、ビジネスを通じて売上拡大に寄与することを目的として開催されています。

世界74カ国・地域から食品・飲料メーカー・商社等2,930社/3,738ブース（国内949社/1,354ブース、海外1,981社/2,384ブース）出展し、約72,000人が来場しました。

本会は長崎県（長崎県水産物海外普及協議会）として出展したスペースの一角にブースを設け、養殖ぶり・養殖ひらす・養殖まだいをはじめ、冷凍品（養殖マグロ・アカムツ・ケンサキイカ・キンメダイ）、乾物品（煮干類、背黒・小羽・か

えり）の展示、高鮮度・高品質の本県水産物のPR、及び商談を行いました。

今回の商談では、国内外ともに養殖ぶりへの問い合わせが非常に多く寄せられました。現在全国的に出荷尾数が限られており、本会の取り扱いも非常に厳しいことを説明し、今後の動向について情報共有を行っていくことを伝えました。

冷凍品については回転ずし、ホテル等の外食向けの問い合わせが多く、特に高鮮度・高品質な天然魚での冷凍品（アルコール凍結）の要望が多く寄せられました。本会としても、昨年度より販路拡大に力を入れている分野であるため、サンプル依頼など早急に対応したいと考えています。

また、乾物品（煮干類）については国内流通の話が多く、煮干生産量全国1位の長崎県はどういう状況なのかとの問合せが多くありました。かえりをはじめとした煮干原料の高騰により現在案内が厳しい状況ではありますが、今後の動きも踏まえて対応していきます。

今回のFOODEX JAPAN 2025への出展は、様々な業種の方から国内外の視点で多くの意見を聞くこと

ができ、長崎県の水産業の魅力とポテンシャルを再認識することができました。今後も長崎県の水産業の発展に向けて、更なる努力を続け、販売拡大を目指していきます。



本会ブース内で展示された商品



本会ブースの様子

「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」

長崎県漁協青壮年部連合会

本記事では、2・3月号にて掲載している標記交流大会において発表された、下條浩人氏の取組について紹介します。

●第3分科会（流通・消費拡大部門）

吉岐地区漁業士会

下條 浩人 氏

「魚のさばき方動画を用いた水産教室について」

【取組概要】

1. 地域の概要

私の住む吉岐島は九州北部の玄界灘に位置し、南北約17km、東西約15km、面積約139km²の比較的平坦な島である。海岸線は複雑で、特に西岸一帯では出入りの激しい海岸地形がみられる。

本島周辺海域では、対馬暖流分岐流と九州沿岸流が交錯し、七里ヶ曾根、平曾根等の天然礁も多く、好漁場に恵まれている。このため、地元漁協はもとより、県内外の出漁船による操業が吉岐周辺海域で行われている。また、沿岸浅海域では起伏に富んだ岩礁地帯が張り出し、磯根資源が豊富な漁場を作り出している。

2. 漁業の概要

吉岐に5つある漁業協同組合には正組

合員が合わせて約700人所属しており、一本釣り漁業を中心に延縄、定置網、採介藻漁業等を操業している。令和5年度はイカ類、ブリ類を中心に約23億円の水揚げとなっている。

3. 研究グループの組織と運営

私が所属する吉岐地区漁業士会は、指導漁業士11名、青年漁業士3名の計14名で構成され、吉岐の漁業活性化を目的として、水産教室の開催、担い手対策、新規漁具漁法の導入や他地区の漁業者との情報交換、海岸清掃活動等に取組んでいる。

4. 研究・実績活動取組課題選定の動機

吉岐では、小学生・中学生・高校生を対象に水産業への理解を深めるとともに魚食普及を図るため、漁協、市、県、漁業士会が協力して水産教室を開催しており、小学生にはスルメ加工、中学生には魚の三枚おろし、高校生には刺身盛り等を指導している。

これまで、吉岐地区漁業士会では校舎内で水産教室を開催し、吉岐の水産業の説明や魚のさばき方を指導してきた。

ところが、令和2年に新型コロナウイルス感染症が拡大し、感染拡大防止のため様々な活動が自粛となる事態となり、吉

岐地区漁業士会でも学校側と協議した結果、魚さばきの実演や試食の中止または水産教室自体の中止を余儀なくされた。そのため、魚をさばくのを楽しみにしている子供達にできることがないか漁業士会で話し合ったところ、魚をさばく様子を動画撮影し、学校に配布して子供達に見てもらおうとの意見がでて、取組むこととなった。

5. 研究・実践活動状況及び成果

地元で多く漁獲されているヒラマサ、ブリを用い、漁師がさばく様子を撮影した。

まず、魚の部位や包丁の持ち方といった基本から初心者が理解できるように丁寧に撮影した。ウロコ取りから始まり、三枚おろし、サク取り、刺身の盛り合わせに至る一連の工程を地元の動画作成業者に協力を得て撮影し、見た際に分かりやすいようにテロップやナレーションを入れた。

水産教室では、動画を用いてさばき方を撮影した他、水産教室が中止になった学校には動画を記録したDVDを配布し、生徒の学習に活用してもらった。また、動画を見た生徒が水産教室後も動画を視聴できるように、YouTubeにアップロードした。

6. 波及効果

令和3年に長崎県内の杵岐・対馬・五島・県北の漁業士会が一同に会する離島地区漁業士会議において、魚のさばき方動画を用いた水産教室について事例発表した他、令和4年には九州ブロック漁業士研修会、令和5年には大分県漁業士会総会でも講演を行った。

また、地元新聞に取り組みが掲載され、漁業士会活動を広く知っていただく機会となった。

近年は多くの魚さばき方動画がネット上にあり、それらをうまく活用することで、「自分も魚をさばいてみよう!」という気持ちにさせることや、水産教室後に自分で魚をさばく際に動画を参考にすることもでき、水産教室以外での効果も期待される。

7. 今後の課題や計画と問題点

現在は家庭で魚をさばくことが少なくなっており、杵岐でも水産教室までは魚をさばいたことがない児童が多数いる。水産教室でさばいた経験があるのとならないのでは、大きな差があると思われるので、これまで以上に取組んでいきたい。

新型コロナウイルスの感染症法上の取扱いが5類感染症に引き下げられてからは、感染に注意しながら水産教室を開催し、魚さばきの実演と動画視聴を使い分けている。現在もウイルス感染自体はなくなっていないため、万一、感染が拡大した場合でも、魚さばき方動画を活用して水産教室を開催できると考えている。

また、動画は水産教室の教材としてだけでなく、イベントや漁業士会の情報発信のひとつとして活用し、漁業士会活動を活性化させたい。



※個人情報保護の観点から、WEB掲載版では、一部内容を省略しております。

今年度本会に入会した新入職員をご紹介します。

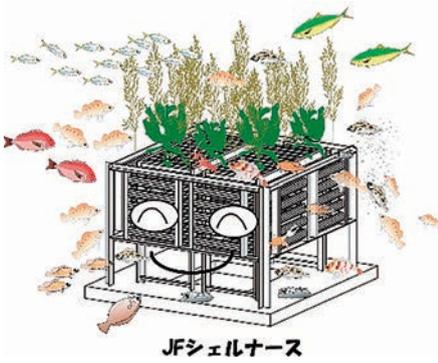
魚礁に魚が集まる理由・シェルナース調査報告会

購販部 購買課

沿岸で漁を営む漁業者の皆さんにとって、魚礁は日常的に利用されている重要な存在ではないでしょうか。そのため、魚が集まりやすく獲りやすい魚礁であるかどうかは、多くの漁業者の皆さんが高い関心を持つところではないかと思えます。そこで魚礁になぜ魚が集まるのかについて、これまで分かっていることを簡単にお話しします。その理由を知ると、魚礁は単に魚を誘引するだけでなく、水産資源を増やすことにも貢献していることが理解できます。

【魚礁の起源と歴史】

日本での魚礁の歴史は古く、魚を集めて獲りやすくするための補助的な漁具（柴づけ、シイラづけ、石塚などの「づけ」漁法）に由来すると考えられています。



JFシェルナース

江戸時代初期に土佐藩家老の野中兼山（のなかけんざん）が現在の高知市浦戸付近に山石を投入して磯を作ったのが魚礁による漁場造成の最初と考えられています。これ以降も魚を獲りやすくなる漁場造りのために魚礁を利用することが歴史的に行われてきて、現在では国策として大規模に魚礁を設置するまでに魚礁事業が発展してきたのです。魚礁は、漁業者の生活の知恵から生まれた歴史のある伝統的な技術だともいえます。

【魚礁に魚が集まる理由と増殖効果】

砂泥底に魚礁を入れると、足場ができ、陰ができ、生物のすみ場・隠れ場ができます。魚礁近くの流れが微妙に変化することで、周囲の底質組成や浮泥分布及び水質なども微視的には変化します。魚礁を入れることで、元々の環境要因にアクセントを付け加えることとなります。これに呼応して新たな小型生物が魚礁とその周囲にすみつくようになります。ある生物のすみ込みは別の生物を呼び込み、多様な生物のすみ込みの連鎖が生じます。また複雑な空間を備えた魚礁は、小型魚類の隠れ場にもなります。魚礁が小型生物や小型魚でにぎわうようになると、エサを探索中の大型の魚介類も訪れるようになります。また産卵目的で集まる魚介

類もいます。これらの魚介類が皆さんによって漁獲されるといった構図です。魚礁のにぎわいの主体である小型生物や小型魚は、海の生産力を支える土台的な生物に相当し、魚礁はこれらの生物を増やすことでこの土台を厚くします。大型の魚介類は、エサ場・産卵場として魚礁を戦略的に利用することで、成長・成熟を促進し、再生産の強化を図っています。したがって、優れた魚礁は、すみ場・隠れ場・エサ場、産卵場の機能の高い魚礁であるといえます。魚がたくさん集まる魚礁は、増殖効果の高い魚礁でもあるわけです。

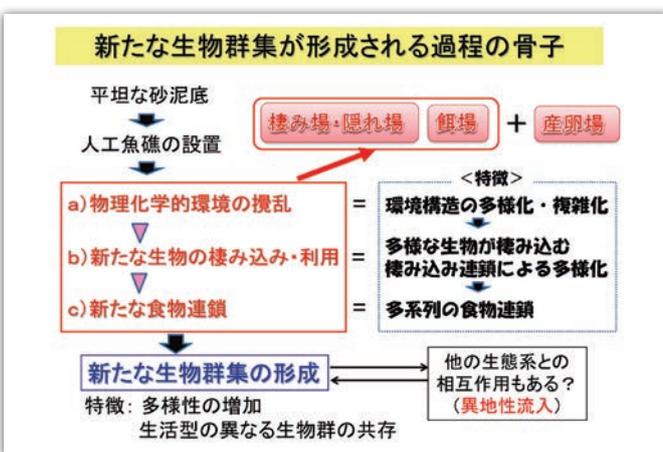


図1 新たな生物群集が形成される過程の骨子

【JFシエルナースと生態系】

JFシエルナースは、小型生物の培養に優れ、産卵基質としても利用される貝殻基質でエサ場機能、産卵場機能を高めるとともに、貝殻基質の空間配置の工夫により魚介類のすみ場・隠れ場を創出しています。生態系の生産力の底上げにつながるような魚礁の設置が今後も積極的に行われることを願っています。

【JFシエルナースの効果調査報告】

吉岐市箱崎沖の水深84mにシエルナース6・0型(写真1)が設置されています。設置から1年10カ月後の2024年12月に、(一社)水産土木建設技術センター長崎支所、海洋建設(株)(開発・製造)とともに水中ドローン(ROV)による調査を実施しました。魚群探知機では魚礁を設置した場所でのみ、大型の魚群反応がみられ、ROVに



写真1 シェルナース 6.0型



写真2 ヒラマサの群れ

よる観察ではヒラマサやハタ類、イシダイの群れを確認することができました(写真2)。
2025年3月、この調査結果を箱崎漁協の役員会で報告し、漁場造成に関するアンケートにもご協力いただきました。報告会では、漁業者から「シエルナースは古くなるほど集まる魚が増えるのか?」との質問があり、海洋建設(株)から「魚の集まる量はシエルナースで増える餌生物量の増減とともに推移する傾向がある。餌の量は1〜2年で安定し、魚の量も一定になる。

季節により集まる魚も異なるので増減する」との回答がありました。

アンケート回答を整理した結果、魚介類や海藻を増やすための取り組みとして、「藻場造成」や「増殖場の造成」「漁場の造成」を回答する方が多く、漁場造成に前向きな意見が多くあがりました(図2)。

今後も引き続き、皆様の浜にお伺いし、各浜に合ったシエルナースをご提案・推進して参りますのでよろしくお願いいたします。

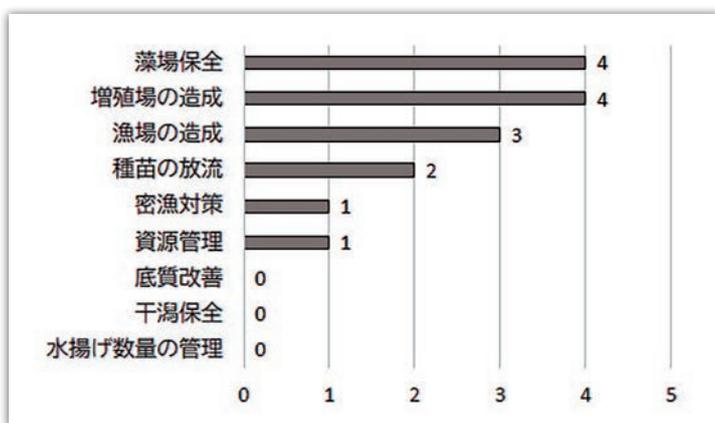


図2 資源を増やすための取り組みについてのアンケート集計結果 (回答者数7名)

ガザミを採捕される皆様へ

長崎県有明海ガザミ資源回復計画作成協議会

ガザミを採捕される皆様へ

ガザミの採捕禁止 (6/1~6/15)

有明海では、**6月1日~6月15日**の間、**漁業者だけでなく一般の方もガザミをたも網その他のすくい網で採捕することは禁止されています!!**

これは、日本海・九州西広域漁業調整委員会指示による規制です。

有明海の概略

※有明海とは・・・
委員会指示の対象となる「有明海」は以下の直線及び陸岸によって囲まれた海室です。

- ・長崎県瀬崎崎から熊本県天神山に至る直線
- ・熊本県埴岳から高松山三角点に至る直線
- ・熊本県天草上島恵比須島から大矢野岳に至る直線
- ・熊本県三角灯台から中神島を経て三角岳に至る直線

※周年、**全甲幅長13cm以下の小型ガザミの再放流**にも取り組んでいます。

13cm以下

福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県 水産庁九州漁業調整事務所
(問合せ先: TEL.092-273-2004)

- 日本海・九州西広域漁業調整委員会指示により広域資源管理のために講じる措置としては、左記の通り取り組みこととなっています。
- (1) 漁獲努力量削減
 - ① 抱卵ガザミの再放流又は一時畜養により産卵機会を確保する。
 - ② 全甲幅長13センチメートル以下の再放流。
 - ③ 軟甲ガザミの再放流。
 - ④ 6月1日から6月15日までのたも網その他すくい網による禁漁。
 - (2) 資源培養措置
- 関係県による積極的な種苗放流を実施する。

- (3) 漁場保全
- ガザミ成育場の環境改善、生産力回復のため、海底耕耘や覆砂等の実施。また、各県自主規制を設け取り組んでいます。
- ガザミの資源量は1985年をピークに減少してきています。上記のような措置を実施してきたこともあり、近年では増加傾向にあると考えられています。この措置は漁業者のみならず、一般の方も対象であり、その努力が少しずつ実を結んでいるものです。これからもっと資源を増やすため、上記の取り組みにご理解、ご協力をお願いします。

募金ありがとうございます

(公財) 漁船海難遺児育英会

(公財) 漁船海難遺児育英会は、漁船の海難事故(転覆・衝突等)や海中転落等の事故により、親を亡くされた遺児の経済的・精神的援助を目的に設立され、幼児から小中高生・大学生に学資事業を行っています。

しかし、教育費の高騰により資金的にはまだ十分とはいえませんので、今後とも皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。

2月には次の方々からご寄付をいただきましたのでここに厚くお礼申し上げますとともに、紙上にお名前を掲載させていただきます。(敬称略)

【団体】

▼長崎県水産加工振興協会

マダイのTAC(漁獲可能量)管理開始について

長崎県水産部 漁業振興課

漁業関係者の皆様には、平素より資源管理へのご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今回は、マダイのTAC管理についてご説明させていただきます。本県の漁業者が漁獲している日本海西部・東シナ海系群のマダイは、国の新たな資源管理においてTAC管理の候補種とされ、令和4年からTAC管理に向けた議論が始まり、関係漁業者からの意見聴取やステークホルダー会合、TAC意見交換会などを経て、令和7年1月からTAC管理を開始することが決定しました。

TAC管理の本格的な運用に向けた「ステップアップ管理」について

国は、TAC管理導入当初は柔軟な運用とし、課題解決を図りながら段階的に順次実施する「ステップアップ管理」を導入することとしています。この「ステップアップ管理」は、TAC管理の本格的な運用にあたる「ステップ3」までに、準備段階として「ステップ1、2」を設け、各ステップにおける課題を解決しながら本格的な運用に移行するものです。「ステップ1」では、漁獲実績報告(以下「TAC報告」という。)を義務化して漁獲情報収集体制の構築を図り、「ステップ2」では各管理区分(都道府県を

含む)に目安となるTACを提示してTAC管理の運用イメージをつかむことを目指します。なお、国は「ステップ1、2」で3年間を想定しており、「ステップ2」までの間に課題解決の取組等に十分な進展があった場合に「ステップ3」に移行することとしています。

「ステップ1」の概要

令和7年1月からの「ステップ1」では漁獲実態を把握し、TAC報告に慣れることを目的としています。このため、各県へのTACの配分は行われず、国が定めるTACの内数として一括管理され、採捕停止命令が出ることもありません。マダイは本県において、ごち網や釣り等の様々な漁業種類で漁獲されますが、マダイを漁獲するほぼ全ての漁業者の皆様は、TAC報告を所属漁協に委任されていますので、関係漁協におかれましては引き続き適切なTAC報告にご協力いただきますようお願いいたします。※ステップ1〜3までの流れや詳細については、添付図表をご覧ください。

TAC報告の意義

「ステップ1」では、情報収集体制を整備することとされていますが、ご報告いただいたTAC報告が、どのように活

用されるのか、ポイントをご紹介します。(1)資源評価での活用

資源の状態を把握するために研究機関が行う資源評価では、市場での漁獲物調査や調査船による調査で得られるデータのほか、漁業者の皆様からのTAC報告が利用されています。魚が「いつ」、「どれだけ」獲れたか、という漁業者の皆様からのTAC報告が、資源評価の精度向上にも繋がり、漁業現場の感覚・実態に見合った資源評価に繋がります。

(2) TAC算定のための基本シェアとしての活用

TACは、同じ資源を利用する他県や大臣管理漁業を含めた全体の漁獲量のうち、それぞれが占める割合(以下「基本シェア」という。)に応じて配分されます。この基本シェアのデータは、農林水産統計やTAC報告が利用されるため、適切なTAC報告が適正なTACの配分に繋がります。

おわりに

平成30年の漁業法の改正以降、水産庁は令和7年度までに漁獲量ベースで8割をTAC管理することを目標とし、順次、TAC魚種を拡大しています。本県においてマダイは、令和6年1月にTAC魚種に追加されたカタクチイワシ対馬暖流

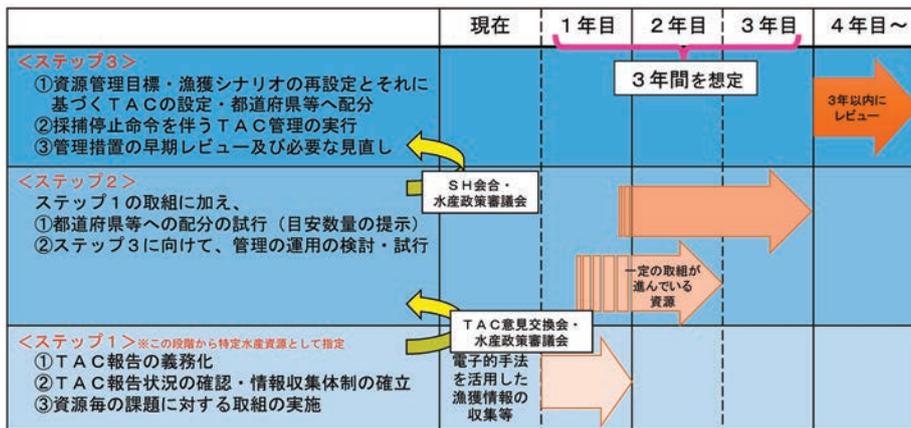
系群及びウルメイワシ対馬暖流系群につき、3番目に追加された魚種となります。前述したように、TAC管理導入当初は、課題解決を図りながら段階的に順次実施する「ステップアップ管理」を導入しており、十分な進展があった場合にステップアップを行うことになっていきます。マダイについて、今後少なくとも3か年は「ステップ1、2」の試行期間が続きますが、TAC管理の本格的な運用を行う「ステップ3」に向けて、管理上の課題の抽出・検討を行う重要な期間となりますので、漁業関係者皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。また、マダイに限らず、TAC管理に関するご意見や疑問、ご相談等あれば、随時、当課までご連絡をいただきますようお願いいたします。

長崎県水産部 漁業振興課
電話番号：095189512821

TAC管理のステップアップの考え方

(参考資料)

- 新たなTAC資源については、通常のTAC管理への移行までのスケジュールを明確にした上で、TAC管理導入当初は柔軟な運用とし、課題解決を図りながら段階的に順次実施する「ステップアップ管理」を導入。
- 「ステップアップ管理」の考え方及びスケジュールは「資源管理基本方針」に規定し、具体的には以下の3つのステップに分けて、通常のTAC管理導入に向けたプロセスを確実に実施。
- ステップ2までの間に課題解決の取組等に十分な進展があった場合に、ステップ3へ移行する。このため、ステップ3へ移行する前には、ステークホルダー（SH）会合を開催してステップ2までにおける取組状況等について意見交換を実施。（ステップ1・2で3年間を想定）



ステップアップ管理の具体的内容

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
資源管理の目標	・ 漁業法第12条第1項第1号に基づく目標（漁業の実態等を踏まえた目標（PGY）も含む）		・ これまでに得られた情報を基に更新した資源評価に基づき設定
漁獲シナリオ	・ 資源管理の目標を達成する漁獲シナリオを選択		・ 新たな資源管理の目標に基づく漁獲シナリオを選択
TACの設定	・ 漁獲シナリオから導かれるABCの範囲内で設定		・ 左に同じ
TACの配分	・ 実質的に国一括の管理とし、具体的な配分量は設定しない ・ ただし、都道府県に対し、具体的な管理を行うために参考となる数量を提示	・ 都道府県等への配分の試行を実施（自主的な資源管理の取組内容を含む漁業の実態や資源の特性に応じた配分ルール等の検討を含む）	・ 配分ルールに基づき、都道府県等へ配分（漁獲量上位8割に含まれる場合は数量明示、それ以外は現行水準とする）
漁獲が積み上がった場合の対応	・ 法第33条に基づく「採捕停止命令」は行わないこととする（※1）	・ 法第33条に基づく「採捕停止命令」は行わないこととする。ただし、「採捕停止命令」の発出の仕方を検討（※1）	・ ステップ2までの結果を踏まえ、法第32条及び第33条に基づく「助言・指導・勧告、採捕停止命令」を実施
自主的な資源管理	・ 従前から行われている自主的な取組を引き続き実施しつつ、利用可能な科学的知見を基に、その効果を検証		・ 自主的な資源管理の効果の検証を踏まえ、管理の工夫に反映
資源毎の課題に対する取組	・ 資源の特性や漁業の実態を踏まえて、関係者間で、通常のTAC管理導入に当たった課題を整理し、ステップ2までの間に十分な進展を得ることとする ・ ステップ3へ移行する前にSH会合を開催して、ステップ2までにおける取組状況等について意見交換		・ 導入された運用等により課題解決が図れているかを検証 ・ 必要に応じ運用の改良等を検討

※1 漁獲実績を積み上げるために明らかに漁獲努力量を増やしている等、TAC管理の趣旨に逆行するような操業が見られる場合には、ステップアップ管理の取組を適切に進める上で必要な助言・指導等を行うものとする。

※2 ステップアップ管理を含む新たな資源管理の推進にあたっては、関係する漁業者の理解と協力を得た上で、着実に実行していくものとする。

令和7年度の 総合水産試験場 の取組について

長崎県総合水産試験場 企画開発推進室

はじめに

皆様方には日頃から総合水産試験場が実施する各種業務に対し、ご支援・ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

総合水産試験場では「長崎県水産業振興基本計画」に沿って実施する具体的施策を技術的側面から推進するために、資源管理による水産資源の持続的利用、養殖業の成長産業化、水産加工業の育成・強化等に関する諸課題について、

試験研究を行っています。

また、「開かれた試験場」として、最新の設備を広く開放し、水産業界の要望に即した試験、産学官による共同研究等を積極的に行っています。

ここでは、本年度の主な取組を紹介いたします。

主な事業の紹介

新規事業

○増殖場を活用した重要資源の放流効果向上事業

予算額…4,343千円

重要資源の早期回復を図るため、増殖場等を活用した種苗放流技術の開発と放流効果の把握を行うとともに、放流実施機関に開発技術を普及することにより資源の維持・増大を図り、持続可能な沿岸漁業の実現を目指します。

○長崎シン水産魅力土産の創出プロジェクト研究

予算額…6,863千円

本県水産加工業において、これまであまり生産されてこなかった常温流通性、即食性の高い水産加

工品の生産を後押しするため、加熱・乾燥による新たな加工技術を開発します。

○IoT活用有害プランクトン対策事業

予算額…5,346千円

有害プランクトン等に起因する養殖生物の斃死を防止・抑制するため、IoTを活用して、環境調査、有害赤潮の動態・消長・移流予測と検出・防除法の検討等を行います。また、貝毒発生監視等にも取り組みます。

継続事業

○沿岸漁業育成支援事業

予算額…8,911千円

資源評価の高度化に資するモニタリング技術開発と操業効率化に資する技術開発や調査を行うとともに、スマート技術や漁海況情報を活用できる漁業者を育成し、持続可能な沿岸漁業の実現を目指します。

○トラフグ養殖収益性向上のための育種研究事業

予算額…7,757千円

全国生産量1位の地位を占めるトラフグ養殖の収益性向上を目指し、育種技術による優良種苗の開発と普及を図ります。

○長崎県養殖特産種創出のための生産技術開発事業

予算額…6,406千円

養殖業の収益向上と経営安定を図るため、既存の主要養殖対象種に加えて新たな養殖特産種として、高成長や高温耐性等が期待できるウスバハギ及びサバ類の種苗生産技術を開発します。

○真珠養殖業経営安定化対策事業

予算額…2,053千円

アコヤガイ稚貝の大量へい死を軽減するため、真珠業界等と連携して、技術開発を行います。

○環境変化に対応した貝類養殖技術の開発・向上事業

予算額…1,945千円

県内の主要な貝類養殖種（カキ類、アサリ）について、新しい養殖技術開発、新技術の応用及び現場導入により生産性の向上を図ります。

○気候変動対応の藻類増養殖技術開発
 予算額…3,917千円

温暖化の影響による藻場や藻類増殖への影響を把握し、気候変動に対応した藻場造成技術の開発及び藻類増殖技術の改良・開発を行います。

○多様なニーズに対応した水産加工品創出技術支援事業
 予算額…2,060千円

オープンラボを活用し、本県水産加工業者が行う試作に対する指導・助言、現地研修会での技術指導などを通し、社会経済の変動に伴い多様化する消費者ニーズに対応した水産加工品の創出を支援します。

○売れる美味・新食感水産加工技術の開発
 予算額…2,318千円

長崎県で四季折々に漁獲される旬の魚や主要な養殖魚を用い、マーケティングの視点にたった美味しさと見栄えを兼ね備えた冷凍刺身及びこれまでとは異なる食感のすり身等の製造に必要な加工技術を開発

産学の協力のもと開発します。

○沖合域における広域流動モデル技術の活用による水産分野の生産性向上
 予算額…8,631千円

流動モデルによる有害赤潮の広域移流予測・検出・閲覧システムを開発し、有害赤潮の養殖場への流入を予測・検出し、迅速な対策により、赤潮漁業被害を抑制します。開発したシステムは流れ藻等の移流予測にも応用します。

○養殖業の成長産業化にかかる技術開発事業
 予算額…5,983千円

養殖業の成長産業化を推進するため、国内外販売で競争力のある新魚種の養殖技術開発、生産性の向上等に繋がるスマート養殖技術開発及び収益性を悪化させる疾病に対する技術開発を行います。

この他、「有明海特産魚介類生息環境調査」、「有明海漁業振興技術開発事業」等についても水産部関係各課と連携して取り組んでいます。

水産技術研究所及び長崎大学との連携

総合水産試験場に隣接する「国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所」及び「長崎大学海洋未来イノベーション機構環境東シナ海環境資源研究センター」との連携強化を図り、共同研究に取り組み他、漁業者との意見交換会や広く一般に公開する「ながさき水産科学フェア」を共同開催します。

情報の発信

○研修会の開催

試験研究の取組内容について、漁業者を始めとする関係する方々の理解と関心を深めて頂くため、各地域で研究成果の紹介や意見交換を行う研修会「出前水試」を開催します。

○漁海況情報

漁業活動を支援するため、県庁ホームページにおいて「漁海況週報」、「漁海況通信」の最新情報及びバックナンバーを掲載すると

もに、簡易版の海況予測情報も公開しています。また、これらの情報は市町や漁協に対して電子メール等により配信することで、漁業者の皆様の目に触れる機会を増やすよう努めています。

○技術情報

施設紹介、研究報告、情報サービス、試験研究情報等を県庁ホームページで公表しています。また、魚のさばき方等も掲載しています。
<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>

お問い合わせ

水産業の振興や試験研究に関して、皆様からのご意見やご要望等がございましたら、総合水産試験場企画開発推進室（095-850-6294）もしくは、最寄りの水産業普及指導センターまで、ご連絡頂きますようお願いいたします。

（企画開発推進室 松田 正彦）

漁船海難月報

令和7年4月号 第七管区海上保安本部
第257号 交通部安全対策課 発行

令和7年3月発生
七管内漁船海難計4隻

令和7年3月末現在 累計7隻
漁船海難発生隻数は前年に比べ4隻減少

漁船海難隻数 (速報値)	県別内訳	
	3月	令和7年累計
火災 ● 2	山口県 0	0(2)
乗揚 ● 1	福岡県 1	3(0)
	佐賀県 0	0(0)
運航不能 (無人漂流) ◆ 1	長崎県 3	4(7)
	大分県 0	0(2)
合計 4隻 死亡、行方不明者: 1名	その他 0	0(0)
	合計 4隻	7隻(11隻) ()は昨年同月



累計死亡・行方不明者数 1名(令和7年3月末日現在)



3月の漁船海難では、2隻の火災船が発生しています。
いずれも出火原因は調査中ですが、機関室から出火したものです。
火災の主な原因としては、配線等のショート、高温箇所付近に可燃物を置いていたこと等による出火です。
火災を起こさないためにも、**下記の確認、点検**をお願いします。

<p>配線の劣化、断線</p> <p>配線のショート等により 出火の原因に!</p>	<p>高温箇所付近に 可燃物を置かない</p> <p>燃えやすいものを排気管等 高温箇所の近くに置かない 出火の原因に!</p>	<p>消火設備の確認!</p> <p>万が一の際、 すぐに使える位置に!</p>
--	---	--

インターネットショッピングサイト

長崎県の安全・安心で新鮮な鮮魚・加工品を
インターネットを通じてダイレクトに食卓へお届けします!!

美味しいものはここにある

長崎漁連

ウェブショッピング JF長崎漁連

<https://www.jf-nagasaki.com>

長崎自慢の海産物を
ネットでお取り寄せ!

長崎漁連 検索

JF 長崎県漁業協同組合連合会

海の事故 0 を目指して

自船の安全確保3か条

その1 発航前、機関や燃料等の点検の実施
発航前は、船体とエンジン周り、燃料・潤滑油の量、バッテリーの状態を点検するとともに、最新の気象・水路情報等入手しましょう!

その2 航行時、常時見張りの徹底
航行時は、他の船舶の動向や浅瀬・定置網など周囲の水域の状況を継続して把握する必要があることから、常時適切な見張りを実施しましょう!

その3 故障時に備え、救助支援者の確保
事故で最も多いのが機関故障! 発航する際は、万が一の機関故障の発生に備え、仲間の船やマリナー等の救助艇による救助体制をあらかじめ確保しておきましょう!
また、併せて入航時刻等を家族やマリナー等へ連絡しておきましょう!
※水上オートバイは民間救助組織の対象外の場合がありますので注意しましょう。

海難防止のためのいろいろな情報を掲載しているよ!

Water Safety Guide 海を安全に安心して楽しむための総合安全情報サイト!
海上保安庁 ウォーターセーフティガイド

船舶海難通報 311センター 人命海難通報 日々の海難を掲載!
海難通報

ツイッター公式アカウント @JCG_koho YouTube公式アカウント 海上保安庁

JCG 海上保安庁 海の安全推進本部
海上保安庁交通部安全対策課
TEL 03-3591-6361 (代表) MAIL jcg-mics@mlit.go.jp

あっぱれ

信頼を実績で築く
船舶塗料の専門店

CMP 中国塗料株式会社 山二塗料です

外壁塗装+屋根塗装なら
山二におまかせください!!

山二塗料産業株式会社
0956-31-8020
095-837-8020
099-260-0600

まごころで大きく包む

パッケージ資材全般・包装機械

株式会社 丸本

包むちゃん

本社・営業部 / 〒851-0134 長崎市田中町593-1
☎ 095-837-8205 FAX 095-837-8208
工場・営業所/福岡工場・熊本工場・福岡営業所

定置網周辺の潮流・水温リアルタイム計測

潮流・水温観測用パイ

主な仕様
フロート径: φ100cm
フロート材料: 厚膜ウレタンコーティング樹脂製
筐体材料: 耐食アルミニウム合金
全備質量: 約52kg(蓄電池含む)
適用電源: 鉛蓄電池(12V80AH)
適合機器: 携帯電話(ドコモ、ソフトバンク、MVNO)
通信機器: 携帯電話(ドコモ、ソフトバンク、MVNO)
計測センサー: 潮流(流向流速)、水温

株式会社ゼニライトプライ
九州営業所 TEL:092-674-0001 FAX:092-674-0002

日付	時刻	電圧	外気温	水温	流速	流向	電圧	流速
2023-07-09	08:40:30	6.00	24.1	20.2	15.20	20.86	11.14	0.20
2023-07-09	08:50:30	6.00	24.1	20.49	11.92	27.24	11.14	0.21
2023-07-09	09:20:33	6.00	24.4	20.48	11.95	26.53	11.13	0.21

一般作業用長靴

ハイビジョン

(23.0cm~28.0cm)

SHIBATA

シバタ工業株式会社
長崎出張所 〒852-8124 長崎市辻町3-40 平山ビル1F
TEL:095-844-1210

合羽

シーガル201

SHIBATA

FURUNO

CHALLENGE the INVISIBLE.

「見えないものを見るために」

古野電気株式会社
北九州支店 / 長崎営業所 095-861-3261 佐世保営業所 0956-48-4440
福岡営業所 092-711-1777 www.furuno.com

Printing & Planning SEIBUNSHA

(有)正文社印刷所

〒850-0874 長崎市魚の町6番6号
TEL(095)826-0211
FAX(095)825-0538
URL <https://seibunsha.jp>

18190097

貝殻
リサイクル魚礁



JFシェルナース



魚礁
(6.0型)



イサキ(対馬市)



ヒラマサ(西海市)



メバル(佐世保市)



イセエビ(新上五島町)



マダイ(対馬市)



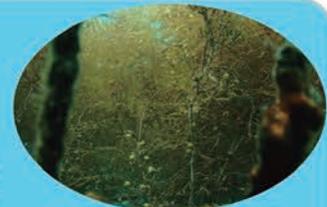
マアジ(南島原市)

保護礁
(フラス1.0型)



漁業者による
種苗の準備

取り付けた海藻は
順調に
生長しています!



設置10年以上経過
ホンダワラ類(長崎市)



2カ月後(長崎市)



1年2カ月後(対馬市)



1年5カ月後(平戸市)

漁師の考えた小型ブロック

貝藻くん



60cm×55cm×45cm、重量60kg

長崎県内で1,156基(全国約12,573基)
ご採用いただいております(2013~2024.4.1現在)



クロメ生育状況



下の隙間に隠れるクエ

お問合せ先 JF長崎漁連 購販部 購買課 TEL 095-829-2420

開発・製造 海洋建設株式会社



JF
JFグループ

着けよう、
あなたが家族のことを
思うなら。

めざせ！
海難事故

自分の命は自分で守る！
わずらわしさと窮屈さから解放！
ベスト感覚で着れる
ファッションなライフジャケット
常時着用型救命胴衣(自動膨張式)

膨張時

反射リフレクター
エア-吹入補充バルブ
ホイッスル
炭酸ガスボンベ
手動レバー

お問い合わせは、長崎県漁連 購買課まで TEL 095-829-2418~2420

「ギョレンオイル大漁」 発売から 50 年



「ギョレンオイル大漁」は、漁船で使用される機械とその使用条件を考慮して定めた規格に合わせて開発した、漁船のためのエンジンオイルです。

ギョレンオイル
大漁
シリーズ

大漁スーパー

中・小型漁船の高速エンジン用 (SAE30、40、15W-40)

大漁ロイヤル

大・中型漁船の中・低速エンジンオイル (SAE30、40)

大漁LL

大・中型漁船の長期航海用 (30、40)
小型高出力エンジン用のロングライフオイル (15W-40)

大漁ハイドロスーパー

耐荷重性に優れた漁船用油圧作動油 (ISO VG32、46)

大漁ベストクール

陸上冷凍装置から遠洋漁業の超低温冷凍装置まで
(ISO VG32、46)

漁協は、JFグループへ。

JFブランド商品

“ギョレンオイル大漁シリーズ”

漁船用エンジンのための最高級オイル。

〈エンジンオイル〉

- 大漁スーパー
- 大漁ロイヤル
- 大漁LL

〈油圧作動オイル〉

- 大漁ハイドロスーパー

〈冷凍機オイル〉

- 大漁ベストクール



海には、JFマークの商品を。



JFグループ

問い合わせ先
問い合わせ先

JF全漁連 購買事業部 石油第2課
JF長崎漁連 購買課

TEL 03-6222-1323
TEL 095-829-2419



発行/長崎県漁業協同組合連合会
〒850-8686 長崎市五島町2番27号 TEL095-829-2413
年間購読料 2,000円 (会員の購読料は会費に含む)

長崎県漁連 WEBサイトアドレス
<http://www.nsgyoren.jf-net.ne.jp/>

